

メイド・イン・高岡のブロンズ像たち

一世界一のブロンズ铸造の町 高岡の実力

かつて「ブロンズ像といえば、偉人や功績のあった人物などがほとんどだったが、近年ではアニメや漫画のキャラクターなどのブロンズ像が多くつくられるようになつた。
見上げる「ブロンズ像」から、「愛されるブロンズ像」へ。

それは、地域活性化の願いを託され、さまざまな人々の尽力によって生まれている。

そのブロンズ像の多くを製造しているのが、ものづくりのまち、富山县高岡市である。

手のひらに乗る小さな妖怪

「目玉おやじだ」「あ、ねこ娘！」

小さなブロンズ像は、次々とカメラを向けられ、なでられていく。

漫画家水木しげる氏の出身地、鳥取県境港市の水木しげるロードには、氏の描く妖怪をモチーフにした139体のブロンズ像が設置されている。平成22年、観光客数は370万人を突破し、過去最高の2倍以上の数字を記録した。

もとは、約20年前からはじまった商店街の活性化計画。長い歳月に渡る人々の努力が実を結んだものである。計画の当初から関わり、原型制作に携わった株式会社オダチの小立森高氏は、「妖怪なので、大きいと怖く感じる。水木先生からも、可愛くしてほしいと

可愛がられて、輝くブロンズ

「妖怪は大地から生まれるもの」という藤田氏の考えで、ブロンズ像はさまざまな形の石に取り付けられ、低い位置に設置されている。「車椅子の方でも、目の不自由な方も、触って楽しめる。それが、このブロンズ像のいいところです」と、境港市観光協会の古橋剛氏は語る。

また、水木しげる記念館の庄司行男館長は、「ブロンズは、皆さんになじんで、色が変わるのがいいですね。小さくなつたのではと思うくらい、光ってきますよ」と話す。

触る楽しさ、変化する輝き。他の素材にはない魅力を持った「愛されるブロンズ像」たちが、ここにいる。そして、今日もまた輝きを増している。

すべての工程をディレクション

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」といえば、漫画家・秋元治氏の連載漫画で、警察官の両津勘吉とその同僚などが

大正川にかかる橋に設置された「ねずみ男」。たくさんの手によって、いい色合いになっている。

ブロンズ像の 製造工程

ブロンズとは、スズを含む銅の合金で、「青銅」のこと。青銅で作った像が「ブロンズ像」。銅とスズの割合にも種類がある。ここでは、簡単に製造工程を紹介する。

原型制作



原型師が粘土などで原型を制作し、デザインを決定。

鋳型制作



石膏で型をつくり、外型と中子を製作。

鋳造(注湯)



銅合金の配合を選択し、約1200度に溶かして注湯。

仕上げ・着色



湯口など不要なものを取り除き、研磨し、伝統の着色法で色を付けて完成。

要望されたので、小さく、手のひらサイズにしたんです」と、話す。

原型のデザインを監修した造形作家の藤田氏は、「まず、水木先生の漫画に似ていなければいけない。さらに妖怪の面白さを立体としてどう表現するかを考えました」と語る。原型は、水木氏がチェックし、修正された。そうしてようやく完成した原型が、高岡へ送られたのである。

怪の面白さを立体としてどう表現するかを考えました」と語る。原型は、水木氏がチェックし、修正された。そうしてようやく完成した原型が、高岡へ送られたのである。

高岡でないと出せない力

「原型通りに作ってください」。特に細かい指示はなく、それが要望のすべてである。

依頼を受けた高岡市内の鋳造メーカーは、「どんな原型であっても、私たちには、『どんなん原型でいい』と、いふのはつく

繰り広げるストーリーが人気だ。

平成18年、連載開始から30年という節目に、亀有の商店街が中心となつて、JR亀有駅に両津像の設置を計画した。依頼を受けたのは、高岡市にある銅器の製造販売を行う企業。受注から納品までトータルに、細やかなディレクションを行つて。つまり、原型作家の選定から、鋳造、設置まで、依頼にふさわしい技術者や企業などを選択しながら、クオリティや日程などを管理する。

高岡では、ブロンズのほか、他の銅合金から真鍮、アルミなど、さまざまな材質の铸物が製造できる。キャラクター像の製作においても、材質の選択が可能だ。

「両津像は、樹脂製も選択肢にあります。しかし、モニュメントとしての価値も持たせたいとの考え方で、ブロンズでの制作になりました」と、担当者は語る。

「両津像は、樹脂製も選択肢にあります。さまざまな分野の原型師がいる。担当者は、両津像の原型制作を彫刻家でもあ

とつては、特に難しいということはないですね。原型に忠実に作るのは当然ですから」と話す。

モニュメントなどの製作に携わってきた小立氏は、「彫刻の世界では、『铸物は高岡』と言われています。高岡でないと出せない铸物の力があるんですよ」と語る。それは、技術的なことに加え、「彫刻に理解がない」と、いいものはつくれない。そこが大きな違いですね」。

铸造メーカーの担当者は、「高岡は、これまで多くのブロンズ像をつくってきた。知識や感性は、先人から受け継いだ財産です」と語る。

日本を代表する彫刻家の作品や、世界的にも評価されている作品など、そのほとんどが高岡で铸造されたものである。



境港駅側から見た水木しげるロード(上)。目玉おやじのブロンズ像を撮影する女性(左)。



協力/©水木プロ



株式会社オダチに保管されている妖怪ブロンズ像の原型。



協力/©水木プロ



JR境港駅前にある「水木しげる先生執筆中」。

る丸山幸一氏に依頼することにした。秋元氏が描いた両津像のデッサンが届くと、まず5分の1サイズの像を粘土で制作した。難しいのは、「人体として不自然でないようにつくること」と、丸山氏は言う。「漫画は、顔や手足のバランスがデフォルメされています。キャラクターのイメージを活かしながら、造形として破綻がないように心がけました」

最初に制作した両津像は、実物大の163センチ。実寸の原型を粘土で制作した段階で、秋元氏に高岡へ来ていただき、チェックを受けた。大変満足され、修正はほとんどなかつたという。

キャラクター像は、除幕式の日がすでに決まっている場合が多く、日程管理も重要な仕事である。

「職人さんには、自分の仕事に専念してもらい、私たちは、除幕式に至るまで

責任を持って管理しているんです」

無事設置できたキャラクター像。しかし、それで終わりではないという。「ブロンズ像の出来に、地元の人たちが満足しているか。その反応を確かめるまでが仕事」と語る。

キャラクターには、読者のイメージがある。2次元の世界から飛び出したブロンズ像たちは、高岡で生まれ、全国の人々に夢を与えていた。

程を経て、両津像は、亀有へと運ばれた。キャラクター像は、除幕式の日がす



亀有の商店街に設置された両津勘吉像。現在11種類設置されている。

協力/葛飾区役所



大正川にかかる橋に設置された「ねずみ男」。たくさんの手によって、いい色合いになっている。

ブロンズ像の 製造工程

ブロンズとは、スズを含む銅の合金で、「青銅」のこと。青銅で作った像が「ブロンズ像」。銅とスズの割合にも種類がある。

ここでは、簡単に製造工程を紹介する。



原型師が粘土などで原型を制作し、デザインを決定。



石膏で型をつくり、外型と中子を製作。



銅合金の配合を選択し、約1200度に溶かして注湯。



湯口など不要なものを取り除き、研磨し、伝統の着色法で色を付けて完成。

TAKAOKA 産業観光

中村美術工芸

鋳物絵を体験しよう

自分のオリジナルの絵を鋳型に写して彫ることで、描いた部分が立体的に浮き出る作品をつくることができます。本格的なブロンズ鋳造で、1日コースなら鋳型づくりから鋳込み、着色まで体験できます。

- 料金／アートパネル6,000円、オリジナル銅鏡6,000円、銅鏡のペーパーウェイト5,000円、絵皿5,000円
- コース／1日コース(8名～)、3時間コース、1時間コース(いずれも要予約)



デザインを描いています。



枠に砂を詰めて鋳型をつくります。

- 問合せ・申込み 中村美術工芸 TEL.0766-22-6409
高岡市内免3-7-19



指導／中村喜久雄
日展会友、高岡市伝統工芸産業技術保持者

焼型鋳造と合わせて、ガス型鋳造でも作品を発表。日展をはじめ、数々の賞を受賞している。平成12年に、シドニーオリンピックの柔道一本賞のトロフィーを制作。近年は、蜃気楼をモチーフにした造形を発表し、パブリックアートなどの制作も手掛けている。



銅鏡風景「真夏の幻映」

参加者のお二人の完成作品。
額にセットしたアートパネル(右)と、
銅鏡のペーパーウェイト(左)。



武蔵川工房

螺鈿・蒔絵を体験しよう

螺鈿は、漆器に貝で装飾を加えること、蒔絵は、漆で描いて金や銀の粉を蒔く技法です。美しい貝で装飾された高岡漆器は、「青貝塗」と称されています。アクセサリーやお盆などの螺鈿・蒔絵体験ができます。

- 問合せ・申込み
武蔵川工房 高岡市地子木町 1-23 TEL.0766-26-0792
<http://www.raden-musasigawa.com/>



指導／武蔵川義則
高岡市伝統工芸産業技術保持者、伝統工芸士



- 料金／1回1,500円
材料費は実費(2,000円～3,000円程度)
- 開催日／木曜日19:00～21:00、土曜日9:00～12:00
- 体験受入人数／10名まで

D.front ディー・フロント

高岡地域地場産業センター御旅屋店

高岡のものづくり文化にゆかりのある作家やメーカーのクラフトを展示、販売しています。店内ほとんどの商品がハンドメイドの製品で、すべての商品がデザイン性に優れたクラフトです。あなたの生活に潤いを与えるアイテムを探しにいらっしゃいませんか。



- 営業時間／10:00-19:00(水曜定休)
- 高岡市御旅屋15(御旅屋通りアーケード内 高岡大和前)
- TEL/FAX 0766-22-2111
<http://www.d-front.jp/>

高岡地域地場産業センター

富山県西部地域の地場産業を幅広く紹介する施設です。工芸品の展示・販売、銘菓などの特産品の販売を行っています。ものづくり体験ができる「鋳物体験工房」、「漆器体験工房」などもあり、高岡銅器、漆器を知り、楽しむことができる施設です。



- 高岡銅物ミニ水盤(花器) 料金／2,300円(材料費含む)
- 高岡漆器 3種類あり 料金／2,800～3,000円
- 完全予約制です。2週間前まで電話・FAXでお申し込みください。
- 高岡市開発本町1-1 TEL.0766-25-8283 FAX 0766-26-7323
<http://www.takaokajibasan.or.jp/>

屋外彫刻ヒストリー

偉大な人物を讃えて

明治期から昭和20年代まで、銅像はモデルとなった人物の業績を顕彰するものとして建立されてきた。上野公園の西郷隆盛像や皇居の楠木正成像などが、代表的なもの。

日本における銅像の第1号は、金沢市の兼六園にある「日本武尊像」(明治13年)とされる。製作は、高岡金屋町の喜多萬右衛門との記録がある。

昭和初期には、勤勉の象徴として二宮金次郎像が全国に設置された。

高岡市は、1609(慶長14)年に賀藩二代藩主・前田利長によって開かれた町である。利長は、鋳物師を呼び寄せ、産業を興した。これが、高岡銅器の始まりである。以来400年、高岡は、技を継承し、高め、ものづくりの町として発展してきた。

現在では、問屋、鋳造メーカー、加工

ものづくりの町 高岡の力

う多くの企業が高岡銅器に携わっている。ひとつの地域に、すべての工程における技術者や企業が集結しており、世界的にも珍しい産地である。また、鋳造や彫金、着色など、それに一級の技術者が多数活躍している。高岡は、世界一のブロンズ铸造の町なのである。

では、ブロンズの魅力とは何か。小立氏は、「造形に精神性を与えます。それが、材質自身が持っている力ですね」と語る。水木氏も、本格的な像ができることを喜んでいたという。龜有の両津像も、モニュメントとしての価値を求め、ブロンズとなつた。

高岡は、伝統、知識、技術など、あらゆる力でブロンズに命を与えている。高岡は、伝統、知識、技術など、あらゆる力でブロンズに命を与えている。

では、ブロンズの魅力とは何か。小立氏は、「造形に精神性を与えます。それが、材質自身が持っている力ですね」と語る。水木氏も、本格的な像ができることを喜んでいたという。龜有の両津像も、モニュメントとしての価値を求め、ブロンズとなつた。

高岡で製造されたものである。このほかに、JR高岡駅前や中心商店街の通りやボケットパークなど、さまざまな場所に100体近くのパブリックアートが設置されている。ひとつひとつに、メッセージやストーリーがある。ぜひ、高岡でブロンズの力にふれていただきたい。

また、高岡では、製造工程が見学できる工房や、自分でものづくりを体験できる教室もある。伝統工芸品から現代作家のクラフトまで、日常で楽しめるものを展示・販売しているショッピングモールである。高岡は、訪れる人をブロンズアートとともにづくりの楽しさでもなす町なのである。



富山県高岡市金屋町1-5
TEL/FAX 0766-28-6088

高岡市鋳物資料館

登録有形民俗文化財の用具などを展示
高岡銅物発祥の地である金屋町にある博物館。由緒ある古文書や初期の鋳物製品、造型・鋳造道具など、金屋町に現存する貴重な資料を収集・展示しています。

開館時間／午前9時～午後4時30分
休館日／火曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12/29～1/3)
入館料／個人210円 団体(20名以上)160円
※中学生以下無料



高岡古城公園(本丸広場)に点在するブロンズ像



「鎮守の社のアルチザン」(バセオガーデン)
ケヤキの大木を自然のシンボルとし、職人(アルチザン)のまち高岡を表現している。